



セカンドハーベスト名古屋

SECOND HARVEST NAGOYA PRESS

2022.7月号

NO.18

発行元 認定NPO法人セカンドハーベスト名古屋

〒462-0831 愛知県名古屋市北区城東町七丁目148番地

TEL:052-913-6280 FAX:052-913-6281

E-mail:info@2h-nagoya.org URL:https://www.2h-nagoya.org/

編集/印刷 橋本写植



フードバンクネットワーク東海特集

東海3県のフードバンクをネットワーク化し、食のセーフティネット構築を進めます。



個人支援は郵送で東海3県に届けられるけれど…

私たちセカンドハーベスト名古屋は、「東海地方における食のセーフティネットを構築する」とのミッションのもと活動を進めています。このミッションは2014年に生活困窮者自立支援法に基づく個人支援事業の拡大に向けて構築しました。結果、個人支援については東海3県のほぼすべての窓口と連携でき、ゆうパックの仕組みを用いたことから、東海3県の隅々まで個人支援箱を届けることができるようになりました。

団体支援は2HNだけじゃ難しい

しかしながら、団体支援については私たちが引取り式の支援に徹してきたことから、ほぼ名古屋近郊の団体にしか食品を渡せない状況となっています。そもそもフードバンクとはその活動地域での“地産地消”的活動であると言えます。団体支援については各地のフードバンクと連携して行くことが必要であると考えます。

どこと連携するの？

一方、私たちの食品提供先であった地方の団体が

フードバンクとして成長してきた（のわみ相談所、フードバンクぎふ、常滑市社会福祉協議会、フードバンク多文化みえ）ことや、地方に新たにフードバンクを設立し活動が軌道に乗りつつある団体（三好丘緑フードバンク支援センター、東三河フードバンク）があります。そこで、今年度はネットワークの仕組みを構築するため、これら6団体と先ずはネットワークを構成し、仕組みや問題点の抽出と改善を行うことにしました。

ネットワークでなにをするの？

仕組みとしては、食品メーカー等からの大口の食品寄贈がある場合の各フードバンクの許容受取量の調整（マッチングシステムの構築）と具体的な物流手段の構築が課題であると考えています。以下、本号ではこの6団体の活動概要を紹介し、ネットワーク推進に向けてのご理解を賜りたいと考えます。

CONTENTS

フードバンクネットワーク東海特集p.1~3
外国人支援のパートナー団体紹介p.4

フードバンクぎふ

団体概要

- 岐阜県大垣市荒尾1490-3 ☎ 0584-92-1400
- ✉ foodbankgifu.jp@gmail.com 🌐 http://foodbankgifu.jp/
- 握手 生活困窮者への個人支援からフードバンクに発展 個別配達を中心に食料支援を行っています。2021年にはNPO法人化し、増え活動の場を広げています。

2012年から大垣市を拠点に、地域に根差したフードバンク活動を行っています。県内18エリアに複数のサポーターがあり、お互い情報共有しながら各エリアの生活困窮者の方へ食品の個別配達を行っているそうです。配達時に生活相談も行い、必要に応じて日用品などの生活支援も行っているとのこと。フードバンクぎふは大量に食品を動かす“大動脈型”ではなく、ひとりひとりの支援者に寄り添う“毛細血管型”だと話されていたのが印象的でした。自分の住む地域にこのようなきめ細やかなサポートをしてくれるフードバンクがあると心強いですね。(T)



のわみ相談所

団体概要

- 愛知県一宮市向山村1-10-4 ☎ 0586-72-9697
- ✉ nowami38@yahoo.co.jp 🌐 https://nowami.jimdofree.com/
- 握手 1998年から開設し、年中無休で地域の生活困窮者の支援を行っています。支援の一環として、フードバンクを設立し、困窮者支援団体に食品を配布するほか、自ら運営する食堂でフードバンクトリーも実施しています。

我々2HNの草創期、のわみさんから様々な支援を受け、今では切っても切れないパートナーになっています。のわみさんは、1995年に名古屋でホームレス支援活動を始められました。現在は一宮市を拠点に、生活に困窮している方達に、様々な支援をされています。その活動は、食事の提供・食料品や生活用品の配布・シェルターの運営・子ども食堂の運営や支援等々多岐にわたります。今回訪問して、山と積まれた食品・多数の冷凍庫や冷蔵庫からその活動の幅広さを感じます。

食品の配布は月・水・金におこなっており、毎週150から200人がもらいに来るとの事。無料の毎日2回ののわみ食堂には、約30人の利用があるとの事。団体への支援は30団体で、内子ども食堂関係は10団体。シェルターには、80人近くの人が入居しているとの事です。この様に地域社会には無くてはならない存在で、多くの方が恩恵を受けています。その活動の根底には、人間互恵主義社会の実現という、三輪代表理事の人生哲学が色濃く反映されています。人同士が互いに支え合う事は大いに共感します。(J)

フードバンク多文化みえ

団体概要

- 三重県津市豊が丘3-25-1 ☎ 090-2611-1701
- ✉ fb.tabunkamie@gmail.com 🌐 https://www.facebook.com/112640330554063/
- 握手 日本人の方だけでなく、国籍を問わず多くの方に食料支援を行っています。特にコロナ禍で生活に困窮する外国人に食糧支援だけでなく、行政手続きの補助や生活支援も行っています。

団体の代表を務める青木さんは、三重県内の外国人支援などに携わる団体に食品を分配する取り組みをしています。2HNからは21年に約38tの食糧支援を行っています。活動の中心は青木さんお一人で行われていて、日々の活動のボランティアを探すのは難しいとのこと。景気の影響を一番に受けるのは外国人労働者であり、最近は心の問題を抱える外国人が増加しています。困窮外国人家庭の相談にのる青木さんは彼らの心の支えとなっています。(Y)

フードバンク ネットワーク東海



三好丘緑フードバンク支援センター

団体概要

- 愛知県みよし市三好丘緑3-8-22 ☎ 0561-36-1151
- ✉ myooka-m@hm7.aitai.ne.jp 🌐 http://miyosigaokamidori.jimdo.com/
- 握手 行政区が集会所を拠点として、フードバンク活動を行っています。保見ヶ丘支援センターとも連携し、ブラジル人学校など外国人への支援も行っています。

2HNの西三河地域の拠点になれるよう奮闘している小さなフードバンクで、行政区が集会所を拠点として前区長、現区長と事務員2名で運営しています。2HN紹介の地方自治体と企業からの2021年直送分は約25t、ご近所からの寄贈が1t、配布実績は28tです。約30の登録団体に仕分け、引取り要請連絡を入れ、食品を受け渡します。配布先の75%がみよし市内です。

今年の目標は、アルファ米のレシピ普及、3温度切り替えの冷蔵庫と倉庫購入だそうです。新しい住宅が200件くらい増えるため事務所も増築するということで、2HNとの連携をさらに深め、支援の輪がさらに大きく広がればいいなと思いました。(A)



常滑市社会福祉協議会

団体概要

- 愛知県常滑市神明町3-35 ☎ 0569-43-0660
- ✉ tkshakyo@tac-net.ne.jp 🌐 https://www.tkshakyo.com/
- 握手 社会福祉協議会が取り組むフードバンクとして先駆的な存在です。2013年コストコ中部空港倉庫店の開業により、パンの引取が始まり、本格的な活動が始まりました。



最近は各地で社会福祉協議会がフードバンクを立ち上げていますが、常滑市はその先駆けです。まさに地産地消、地域密着型の福祉を目指している社協さんです。約30の団体や施設、そして個人にも食品をお配りしています。①誰もが行ける「子ども食堂」②毎月のおすそ分けならぬ「お福分けステーション」③地元の食事券を地元で使う「社会的体験」の3つを柱にこれからも活動するそうです。他にも面白い企画がいっぱい、常滑すごい!とおもわずニンマリの訪問でした。(M)

東三河フードバンク

団体概要

- 愛知県豊橋市八町通2丁目16番地 豊橋市職員会館1F
- ☎ 0532-75-3826 ✉ foodbank@tees.jp 🌐 http://hmfb.jp/
- 握手 地域インフラのひとつとして、フードバンクのしくみを東三河に定着させていくため、2020年豊橋ライオンズクラブが豊橋市や豊橋社会福祉協議会と連携し、フードバンクを設立しました。

東三河フードバンクは豊橋駅から車で6分、豊橋市職員会館の1階にある。2020年、豊橋市と豊橋市社会福祉協議会との強い連携の下に設立され、元食堂を利用したレトロな佇まいの事務所には食品が種類別にオープンに陳列されている。基本的な活動としては年に3回(4月・8月・12月)市が公報でフードドライブを募り、集まった食品をベースに一人親や多子世帯、学生、外国人等への個人支援を各回200件余り実施。私たちの訪問した日は4月の個人支援の準備が終了したところでお米2キロと様々な食品が詰められた段ボールがうず高くあちこちに積まれ、引き取り手を待っていた。団体への支援は約21か所へ合計130回余実施。昨年度の個人・団体への支援総重量は22,940kgとなる。普段事務所には一日に3人ほど個人で食品を取りに来る人がいるとのこと。ちょうど私たちの訪問中にも一人の青年が訪れ、食品をゆっくり選び、段ボールを担いで帰っていました。なんともアットホームな雰囲気である。また、理事の皆さんはライオンズクラブ等の関係者が多く、大手食品メーカーとの繋がりもあり、是非協力して食品の獲得につなげていけたらと希望が膨らみます。豊橋を拠点とした東三河FBが将来に向け確実に大きな存在になることを実感した訪問でした。(W)

外国人支援のパートナー団体

2HNのパートナー団体で、様々な外国人の相談窓口となっている「共の会」と「名古屋難民支援室」よりお話を伺いました。

共の会（名古屋カトリック難民移住移動者委員会）

沿革 当時「ジャバゆきさん」と呼ばれたフィリピン人女性の相談が多かったことから、私たちは1992年に「共の会」として活動をスタートさせました。



彼女たちは日本人男性との間に生まれた子どもの国籍や結婚など多くの問題を抱えていました。

その後、三河の製造業に従事するため入国した日系ブラジル人やペルー人の労働問題や子どもの教育問題にシフトし、コロナ禍前はなぜかアフリカ系の難民申請者の相談と支援が中心になりました。

現在の活動 コロナ禍以降新たな難民の相談はありませんが、2021年はフィリピンやベトナムなど13か国延べ154回、難民申請者や仮放免者、技能実習生などの生活相談、経済的な相談を受けました。

昔は政治的な理由での難民申請が多かったのですが、いまは、それだけではなく、LGBTQなど多様性への理解を母国で得られないため難民申請に救いを求める人など、若い独身者が多くなってきました。

2021年の名古屋入国管理局における難民認定はたった3人、うち2人を私たちも支援していました。難民認定されると日本で仕事をして自立することが容易になります。入管の収容者は定員400人ですが、現在は32人だそうです。これは難民認定が進んだのではなく入管がどんどん仮放免者を出しているということです。

表向きには就労できない仮放免者は、やはりどこかで仕事をしますが、怪我をしても病院に行けず、勤務先に不当に搾取されても訴えることもできません。ある日突然訪ねて来る人、劣悪な労働環境から逃れてきた人、支援を必要としながらも姿を消してしまう人など事情は様々です。私たちは相談者が求めていること、願っていることに出来る限り応えようと支援しています。長い付き合いの相談者もいて、しばらく電話がないと、便りがないのは良い知らせだと思います。

2HNとの関わり 私たちから紹介した人たちが2HNから食品の支援を受けています。日本人と同様の支援を受けることができない彼らを支えてくれる2HNには感謝の声が寄せられています。

(聞き手A)

名古屋難民支援室

今回のウクライナ侵攻により日本に避難してきた方々に注目が集まっていますが、ウクライナと同様に自国を離れざるをえない状況から日本に逃ってきた外国籍の方々が数多くいます。名古屋難民支援室は東海地方に住むそのような外国籍の方々の難民申請をサポートし、申請後の困難な状況を少しでも安定した生活が送れるよう支援しています。

2HNでは名古屋難民支援室に対しこれまでスポットで食料支援を行ってきましたが、今春から定期団体として食品を提供し、相談に来られる方々に手渡したり、生活に困っている家庭に送付したりするために役立てもらっています。（M）



寄付のお願い

いつも2HNの活動へのご理解、ご協力をありがとうございます。私たちの活動は行政からの支援は一切なく、皆様からの寄付金、会費、助成金などにより支えられています。

今後も皆様のあたたかいご支援、何卒よろしくお願ひいたします。

*2HNは名古屋市の認定NPO法人で、2HNへの寄付は所得税の寄附金控除の対象となります。

銀行振込

三菱 UFJ 銀行 栄町支店 普通口座 0015287

特定非営利活動法人 セカンドハーベスト名古屋

*領収書が必要な方は、info@2h-nagoya.org までご連絡ください。

クレジットカード

単発での寄付だけではなく、毎月の継続寄付メニューもご用意しております。

1,000円/月 3,000円/月 5,000円/月 10,000円/月

セカンドハーベスト名古屋 寄付

